

来週の市場とレート予想

	8/14 (月)	8/15 (火)	8/16 (水)	8/17 (木)	8/18 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 700	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 7,500	+ 53,000	+ 1,000	△ 1,000	+ 2,000
資金需給	△ 6,800	+ 53,000	+ 1,000	△ 1,000	+ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 交付税特会借入・償還	年金定時払い 源泉税揚げ 国債発行・償還(2年)			
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,500 CP等買入 △ 400				
オペスタート	国債買入 + 8,100 共通担保(全店) + 1,500 CP等買入 + 3,000	国債買入 + 7,400 短国買入 + 7,500			
(日本)	GDP(4-6月速報)	日本銀行が保有する国債の銘柄別残高 日本銀行による国庫短期証券の銘柄別買入額 日銀営業毎旬報告(8月10日現在)	業態別の日銀当座預金残高(7月)	貿易統計(7月)	
(海外)	欧 ユーロ圏鉱工業生産(6月)	米 小売売上高(7月) 米 NY連銀製造業景況指数(8月) 独 GDP(4-6月、速報値)	米 住宅着工件数(7月) 米 FOMC議事録(7月25・26日会合分) 欧 ユーロ圏GDP(4-6月、改定値)	米 週間新規失業保険申請件数(12日終了週) 米 鉱工業生産指数(7月) 米 ダラス連銀総裁講演 欧 ユーロ圏CPI(7月、改定値) 欧 ECB議事要旨	米 ダラス連銀総裁講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、先週末対比1兆円減少の356兆6,400億円から始まった。その後は、8日に国債買入オペ、国庫短期証券買入オペを主に358兆1,800億円まで増加した。その後は357兆円台で推移し、357兆2,000億円を越えた。無担保コールON物加重平均金利は週初△0.049%で始まった。その後、7月積み期最終日を翌週に控え、取り手の動きが活発となり、レートは日々上昇し、10日(週末4日積み)には△0.028%となった。ターム物は、1~2W物で△0.045%~△0.025%の取引が見られた。10日に実施された国庫短期証券買入オペは7,500億円のオファーで、前回実施分(4日オファー、オファー額5,000億円、応札倍率2.85倍)と比較し2,500億円増額となった。落札結果は応札倍率3.34倍、按分利回り較差△0.004%、平均利回り較差△0.002%となり、前回から応札倍率が上昇した。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.120 ~ △0.105
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約6,400億円で、週間償還額の約4,600億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。5・10日発行と盆休み前の前倒し案件があったため、発行超となった模様。幅広い業態から、まとまった額での発行案件が確認された。発行レートは、引き続き投資家の強い運用ニーズから、マイナスで発行可能となった企業もあったが、概ね0%近辺での出合いであった。来週の償還額は、2,600億円程度となっている。盆休み本番となり、一般事業法人の発行は少なくなり、償還超となるだろう。発行レートは、引き続き投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺での出合いとなるだろう。17日に、CP等買入オペが3,000億円程度オファーされる予定。現先レートは、△0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での動きを予想する。

<TDB>

8日に国庫短期証券6M第700回債の入札が行われ、最高落札レート△0.1131%(前回債△0.1000%)、平均落札レート△0.1150%(同△0.1019%)と前回債からレートが低下した。一方、9日に行われた3M第701回債は最高レート△0.1082%(前回債△0.1142%)、平均レート△0.110%(同△0.1178%)と前回債から小幅上昇した。セカンダリー市場では3Mが△0.118%、6Mが△0.125%と、入札水準よりやや強めの出合いが見られている。来週は16日に1Y物、17日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.08%近辺から始まった。以降は短国の発行が重なり、△0.07%~△0.075%に上昇。週末には国債・国庫短期証券買入オペがオファーされ、△0.08%台への小幅低下となり越えた。

SC取引では、5年132回債のビッドが週末の買入オペ後増加。△0.30%前半~半ばの出合いが多く見られた。他2年376・377・378回債、5年131回債、10年340・341・342・343・344・345・346・347回債、20年161回債、30年54・55回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。